

にほん らくご 日本の落語について



らくご か
落語家
かつら よねだんじ
桂 米團治

みな わたし らくご か らくご しゃべ しょくぎょう ひと らくご か
皆さん、こんにちは！私は落語家です。落語を喋ることを職業にしている人のことを落語家〔も
しくは落家〕と言います。これから落語についてお話ししましょう。

らくご にほん こてんげいのう ひと い のう か ふ き えんげき かつ
落語とは、日本の古典芸能の一つです。と言っても、能や歌舞伎などのような演劇ではなく語
りの芸、いわゆるストーリーテリングです。いろんな国で、立って喋る形態はよく見かけますが、
落語は座って喋るのです。

ふつう かつた ベ たと えい おとこ ひと はい ひさ
普通の語り部なら、例えば「ある日、男の人が“こんにちは”“おう、こっち入り。久しぶりやな、
何しててん”“忙しくてね”という具合に、ほとんどすべてを会話の形で運ぶのです。

ひとり えんじゃ なんにん じんぶつ えん わけ きやく き ぼ めん そうぞう
つまり、一人の演者が何人も人物を演じ分けて、お客さんはそれを聴きながら場面を想像してい
くのです。落語家の顔を見ながら、落語の世界を頭に描いていくというわけです。

えんじゃ おとこ おんな こ しゅんかんてき じんぶつ か
演者は男になったり、女になったり、子どもになったり……。瞬間的にニン〔人物〕を変えら
れるのは、正座しているからできることだと私は思います。ちなみに歩いたり走ったりする動作
もすべて座ったまま行ないます。落語はお客さんの想像力に委ねられた芸だと言えましょう。

そのほとんどが愉快的な噺です。たまに泣かせる噺もありますが、それでも「笑い」が基盤になっ
ています。噺の最後には「オチ」が付きます。オチを説明するのは難しいのですが、物語の終止
符を打つための手段なのです。ときに言葉の洒落だったり、噺の状況を一気にひっくり返すドン
デン返したり……。物事をクソ真面目に考える人が聴くと、怒り出すかもしれません（笑）。
落語は世相を斜めから見ている芸だとも言えましょう。



らくご えとじだい げんろくき せいれき い ねんたい たんじょう せんごくじだい お とくがわ
落語は江戸時代の元禄期、西暦で言うと1680年代に誕生しました。戦国時代が終わり、徳川
幕府によって日本が統一され、平和な時期が数十年ほど経過した頃、落語が生まれました。今
の東京=すなわち江戸と、京・大阪=すなわち上方の二ヶ所で落語は産声をあげたのです。

とうじ にほんじん きもの き せいかつ らくごか きゃく おな
当時の日本人は着物を着て生活していました。ですから、落語家のスタイルは「お客さんと同
じですよ」という意味があったのです。持ち物は扇子と手拭い。これは和服姿の人が常に携帯す
る「みだしなみ」です。「皆さんと同じ格好で高座に上がってお話しますよ」と、観客の一人…
もっと言えば庶民の代表という気持ちで登場したのです。それが今や日本も洋服社会になったの
で、落語家のスタイルは特別のコスチュームになりました。

せかい るい にほんどくじ わげい らくご き まわ ちょうしゅう おな わら
世界で類のない、日本独特の話芸である落語を聴いて、周りの聴衆と同じように笑うことがで
きたら、あなたは立派な日本通です。日本語と日本文化を知って頂くために、どうぞ、寄席（劇
場）に来て、生の舞台上に触れて下さい！

かつら よねだんじ
桂 米團治

せいねんかっぱい ねん かつ にち おおさか ふ おおさか しうま
生年月日：1959年12月20日 大阪府大阪市生まれ。

かみがたはなしか かんさいがくいんだいがくふんがくぶそつぎょう
上方噺家。関西学院大学文学部卒業。

ねん かつ ごだ いめかつらよねだんじ しゅうめい じつふ にんげんこくほう さんだ いめかつらべいちょうべいちょうじ むしよぞく
2005年10月に五代目桂米團治を襲名。実父は人間国宝の三代目桂米朝。米朝事務所所属。
かみがたらくごきょうかいかい員
上方落語協会会員。